# 使徒言行録４章 5-12 節
# 「天下に一つの名」

　わたしたちを救って下さる方のお名前は、天下にたった一つだけです。それは、「ナザレの人、イエス・キリスト」のお名前です。ペトロは、堂々とこのことを宣言しています。ペトロはエルサレムの議会で力強く宣言しました。ペトロとヨハネが祈るために神殿に行った時に、足の不自由な男をいやしました。集まってきた人々にペトロは説教を始めます。この男が癒されたのは、ペトロの力ではない。ナザレの人イエス・キリストの名によるのだ、と。しかしその説教の途中で、祭司、神殿守衛長、そしてサドカイ派の人たちがやってきて、二人を捕えて翌日まで牢に入れてしまいます。

　さて、捕まったペトロとヨハネはどうなったのでしょうか。かつて主イエスを「知らない」と言ったペトロが、いまや「主イエスは復活した。この方こそメシア、救い主だ」と証言しているのです。まるで 180 度変わったペトロです。一体、何が彼を変えたのでしょうか。それはペトロ自身の力ではなく、復活の主イエスに出会ったからでした。足の不自由な男が主イエスの名によって立ち上がったように、ペトロも、主イエスを裏切り、見捨ててしまったという、大きな挫折の中から、罪の中から、主イエスご自身が立ち上がらせてくださったのです。今、自分を立たせて下さっている方を、ペトロは確信をもって、救い主であると証言しているのです。
　そうして尋問が始まりました。「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか。」ペトロは８節以下のように答えました。まず、ペトロは、自分たちは「病人に対する善い行い」によって取り調べを受けている、と言っています。このことで捕らえられるいわれはない、ということです。そして、「何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか」という質問に、「ああいうこと」というのが、その男が何によって癒されたかということであるなら、それは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものだ、と言いました。ここでの「癒された」という言葉は、原文では「救われた」という言葉が使われています。男は、ただ歩けるようになったというのではありません。癒しは「しるし」であり、彼が本当に与えられたのは、罪の赦しを与える「イエス・キリストの名」でした。復活のイエス・キリストと共に生きることが、この男に与えられたのです。
　そして詩編 118 編を引用して伝えます。ユダヤ人たちは、神の民イスラエルであり、本来は神の家を建てる者たちです。しかし、その家を完成させるための親石である、主イエス・キリストが来られても、彼らはそのお方を受け入れず捨ててしまった。十字架につけて殺してしまった。しかし、神の救いのご計画は進められました。主イエスは父なる神に死者の中から復活させられて、神の右に座し、救いの御業を完成させて下さいました。そうして、十字架で殺されたナザレの人イエスは、すべての人の罪を赦し、救いを完成させて下さる、隅の親石となられました。救い主となられたイエスが、新しい神の民の家、教会の、親石となられたのです。この方だけが、救い主です。世界のすべての人々の救いが、ナザレの人、イエス・キリストの名によって与えられたのです。「わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」 わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、与えられていません。このお一人の方の名前に、すべての人間の救いがかかっています。わたしたちには、このナザレの人、イエス・キリストの名が与えられています。この名だけに希望を置き、この名だけを呼び求め、この名を大胆に宣べ伝えましょう。